四谷の千枚田だより

第100号

8年4ヶ月地域の活動と情報を発信してきました。もう少し頑張ります。

十二月十一日、保存会、連谷お助け隊、棚田っ娘は「四谷の千枚田」を宝として地域の活性化と都市交流を主眼に「収穫感謝」の餅つき大会を開催。当日はつきたての餅(よもぎ、きなこ、あんこ、大根おろし)をはじめ、猪汁、なめこ汁、イカ焼き、焼肉など、食べ放題の大判振る舞いを行った。また、棚田っ娘自慢の「五平餅」や「湧き水、天日干し、これ以上贅沢なコメがどこにあるだん」をキャッチフレーズに棚田米や野菜の直売も行った。

また、このイベントに「くまがい&どりちい」のバンドグループ八名の野外コンサートが会場の盛り上げに一役をかっていただいた。

省みて地域活性化のイベントとして今後も継続を望んでやまないが、開催にあたっての資金は全くなく、協力金、寄付金に頼るのが実情で、暗中模索で実施した。結果的には一般参加者のご好意をいただき「前は合わさった」かのように見えたが、なかなか問屋は卸さない。

「お田植え感謝祭(連谷お助け隊主催)と「収穫感謝」は地域の二大イベントとして継続していきたいものの、タダという大判振る舞いは参加者に大きな魅力を与えるがバザーなどの収益がほとんど見込めないのが実状で、大きな課題でもある。

連谷小学校の田起こし

十二月七日(水)、千枚田の田起こしをしました。固くなった土を耕すことで、土の中に空気がとりこまれ、また肥料(たい肥)も混ぜて、栄養分の高い土にする作業です。農作業の道具は小さい子には重たいのですが、みんな一生懸命に土を耕してくれました。

作業のあとは、お楽しみの田んぼとび。千枚田の上の方から下の方まで、「よーいどん!」で一斉に駆けおりて競争するのです。見ていてとても楽しい活動でした。(HPより)

地域環境整備活動(既報)

十一月十二日、連谷お助け隊、保存会、は「あいち森と緑づくり事業」を活用した住環境整備を実施した。本年は与良木集落と田の口集落の生活道(市道)の除伐、枝打ちを主体に実施。地域住民の多くがこの活動に参加、大変喜ばれた。

農業農村整備事業担当者研修

十二月二日、愛知県土地改良事業団体連合会岡崎支会会員(市町・土地改良区の土地改良事業担当者等)約四十名が訪れ、現地における棚田の概要および保全、地域の取り組みなどの研修を行った。

一戸当たりの平均耕作面積十二アール、一枚当たり０．９アール弱、平均十五枚を耕しており、労力、生産性を考えると米を買ったほうがよっぽど得なことは分かっている。「馬鹿げた事だ、トロイことだ」と言いながらも棚田の魅力(湧水・天日干し、これ以上贅沢な米はない。)に取りつかれ保全に、継承に頑張り続けている。それもこれも「ふるさと水と土ふれあい事業」で作業道を作っていただいたおかげに他ならない。等々。研修に訪れた面々は一戸当たり数町歩を耕す稲作農家や担当者達で、箱庭にも満たない四谷の千枚田を保全する棚田の守り人の力強さに敬意と賞賛の言葉をしきりに頂いた。また、千枚田入り口の崩壊した作業道の一日も早い復旧に願いの込めた言葉を頂いた。

ふるさと指導員研修会

十一月十五日、豊田市武節町のどんぐり工房において県内のふるさと指導員研修会が行われ原田英史、小山舜二が出席した。この研修会は県内の指導員が一堂に会し、活動報告、地域活性化の取り組みなどの意見交換の場として昨年から実施されている。

今回は「どんぐりの湯」が見下ろされる桑原の棚田(現在は数枚の田んぼが耕されているのみで、昨年から赤蕎麦を若干栽培、他はほとんどが耕作放棄されている。)を教材に指導員、各々の提案が示された。指導員の総合的な提案を要約すると飯田街道、どんぐりの湯・揚水発電所(黒田ダム)、面の木原生林、古橋懐古館と他に比類のない環境、条件にあり、この棚田を活用(オーナー制度・貸し農園等々)しなければ「もったいない」の意見に一致した。

むらづくり

十二月十日、豊田市槇本町築羽会館大会議室において築羽自治区主催の「つくばの夢を語る会」が開催され、中山間地の村づくりの体験談をとして招かれ、「四谷の千枚田より地域づくりについて」と題して約二時間の講演を行った。

築羽地区は本年で小学校も閉校となり限界集落に近い環境の中で高齢者が頑張って村づくりに取り組んでいる。講演前に地区の状況を把握するため朝日高原元気村や地元工房などを事前に把握、区民の元気な姿を垣間見た。話の内容として①地域の情報発信者(キーマン)②組織づくり(行政の受け皿)③都市交流(山都共生の理念)等々を提案した。

発行
平成二十三年十二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責　小山舜二